

西山文愛

1. 事業実施の目的

今回の調査の目的は博士論文執筆に向けた（１）現地調査と（２）情報・資料収集、（３）国際狩猟採集民会議の出席である。申請者は、以下の「概要」に従い、参与観察、聞き取り調査、文献調査、専門家からの情報収集によってデータを収集する。

2. 実施場所

マレーシア・サバ州

3. 実施期日

平成 30 年 5 月 25 日（金）から 8 月 2 日（木）

4. 成果報告

●事業の概要

報告者は、マレーシア・サバ州に居住する先住民ドゥスンの人たちの村落に約 2 か月間滞在し、現地調査を実施した。調査では、市街地近郊においていまも継続的に実践されている彼らの自然を利用した諸活動の実態を把握し、それらの活動および人生儀礼の場で観察された従来の信仰の実態の解明をすべく、以下の 3 点 の調査をおこなった。

一部、申請時に予定した日程に変更が生じた。申請者は、2018 年 7 月 22 日から 7 月 28 日までマレーシア・ペナンで開催されている国際狩猟採集民会議に出席する予定であった。しかし、当日は前日からの大雨で道路が冠水し空港に行くことができなかった。さらに、同時期にステイ先のインフォーマントの家族に急病人が出たため、期間内に空港に行く手段が見つからなかった。そのため、当該日程にペナンに行くことができず、調査村に引き続き滞在して調査を継続することになった。

1) 農耕・狩猟・採集・漁撈活動で実践されている行動規範の調査

この時期は、陸稲耕作の時期と重なっていたため、調査村の親族者が定住する村落にて手伝いに行くインフォーマントたちに同行した（写真 1）。それにより、行動規範に対する村落間の比較調査を実施した。調査では、農耕、狩猟、採集、漁撈活動の参与観察および聞き取り調査をおこない、実践されている行動規範の事例を収集した。

2) 人生儀礼および祭礼で実践されている行動規範の調査

出生、結婚、死にまつわる行動規範の参与観察および聞き取り調査を実施した。現在、キリスト教化した彼らの人生儀礼は、キリスト教の神父によって執り行われることが多い。そのなかで、人生儀礼の状況下で、従来の精霊に対する行動規範のが実践されているかの調査をおこなった。

さらに、サバ州では、5 月から 6 月にかけてカマタン (kaamatan) と呼ばれる収穫祭が各地で開催される。この収穫祭は、ボボヒザン (bobolian) と呼ばれるシャーマンを中心に、米に宿る精霊に対して執り行う従来の信仰に基づいた儀式である。ドゥスンの人たちの多

くがキリスト教化した現在でも、一年の中で重要な祭礼として位置づけられている。

本調査では、1990年代以降に稲作の耕作地を切り開き、2018年の時点で稲作をする世帯がない調査村と、現在も稲作を続けている親族関係の村に出向き、両者で実施している収穫祭の比較調査をおこなった。

3) 日常生活で実践されている行動規範の調査

今回の滞在中に、日常生活においても人びとが行動規範をおこなっている状況に遭遇した。例えば、食事中、来訪者が来た際、酒の宴に参加するとき、女性の生理中など、普段の日常生活においても、従来の精霊に対する行動規範を人びとがおこなっていた。そのことから、日常生活で実践されている行動規範の聞き取り調査および参与観察を実施した。

●本事業の実施によって得られた成果

本派遣事業によって、以下の5点の成果が得られた。

1点目は、自然利用の場において、太陰暦が人びとの行動を規定していることが明らかになった。人びとは、月の満ち欠けによって農耕・狩猟・採集・漁撈の最良日を判断し活動していた。今回の調査では、29日周期の月を観察し、その日に人びとがどのような行動を実践しているのかを調査し、データとして収集することができた。

2点目は、本調査では特に薬利用の採集に同行する調査を集中しておこなった（写真2）。その際に、生理中の女性は薬の採集をおこなってはいけないことや、動物がまたいだ薬利用の植物の摂取はいけないなど、20事例の行動規範が観察された。

また、採集行為の大半が薬利用を目的におこなわれていることが判明した。集落は、市街の病院や薬専門のクリニックまで15分の位置にある。そのため人びとが体調不良の際は、すぐに病院に行き西洋医学の薬を処方してもらう。一方で、同時に近くの熱帯林や集落内に自生している植物や作用のある果物を家族や親族が採取し、体調が悪い人に半ば強制的に摂取させることがある。その際に、採取時に行動規範を犯していないかを重要視していることが明らかになった。

3点目は、収集した行動規範に対する事例の中で、人びとは特にトンビルオ（*tombiruo*）と呼ばれる人に危害を加える精霊の存在に畏怖の念を抱いていることがわかった（写真3、写真4）。人びとはトンビルオの危害を受けないように行動規範を実践していた。一方で、トンビルオの危害を受けたという状況に人びとが出会ったときには、キリスト教の礼拝や聖水をふりかけるという行動も観察された。

4点目は、人生儀礼における行動規範について、儀礼の場において行動規範は実践されていなかったが、出産後の母親の行動規範や、人が亡くなったときの行動規範が観察された。

また、収穫祭では従来のシャーマンによる儀礼はいずれの村落内では執り行われておらず、参加者向けの余興やパーティーの趣向性が強いと感じた（写真5）。さらに、自家製酒を飲み比べ、伝統的な鳥を模した踊りの饗宴が繰り広げられる様子は、彼らのアイデン

ティティを保持する場となっていた。

5点目は、日常生活における行動規範をいくつか観察できた点である。これまでの調査では、報告者が、日常生活における行動規範の聞き取りをおこなっても、口をつぐむか、事例が挙げられないということが幾度とあった。しかし、今回の調査で日常生活における行動規範の事例を参与観察によって収集することができた。

調査地の様子：写真



図1.水稲耕作の作業風景



写真2.膀胱炎に効く薬を採取する女性



写真3. トンビロオの危害に合わないように、木の葉を洗濯物に引っ掛けている様子



写真 4. 天気が降ったときに、トンビルオの危害に合わないように、葉っぱを耳に指す男性



写真 5. 収穫祭で開催される筋肉自慢コンテスト

これらの成果は、論文として『国立民族学博物館研究報告』と生き物文化誌学会の『BIOSTORY』へ発表する予定である。また、学会発表として、2019年6月に開催される文化人類学会と同年11月に開催される次世代育成セミナーにおいて、本調査における成果の内容を発表する予定でいる。

●本事業について

報告者が円滑に現地調査を遂行し、無事に帰国できたことは本事業の援助があつてのことです。厚くお礼を申し上げます。本事業は学生の研究活動を進捗させるために、非常に有

益なものであり、今後も事業継続を強く望みます。